



SHUEI

B A S E B A L L T E A M

2026



“未完の可能性を信じ”

強くなるために、私たちは挑戦し続けます。

答えは与えられるものではなく、
挑戦の先に自分たちの手で形にしていきます。

うまくいかなくてもいい。失敗してもいい。
だからこそ、立ち止まらずに動き、
考え、挑み続けます。

失敗は、次の問いを生み出す大切なデータです。

勇気を出して踏み出した経験は、
必ず自分の財産になります。

楽な道や逃げ道は選びません。
自分で決めたことを、最後まで貫く。
その積み重ねが、
人としての強さになると信じています。

本気を伸ばし、エネルギーを止めない。
バイタリティあふれる仲間を待っています。

秀英高等学校硬式野球部
監督 佐々木勇人

大切にしている理念

“未完の設計図”

未完の設計図とは、はじめから答えを与えず、自ら考え挑戦し続けるチームを実現するために掲げた理念です。
失敗は学びに変えながら、一人ひとりが主体的に成長し、自分たちの手でチームをつくり上げていきます。

チームスローガン

超攻撃的野球

超攻撃的野球とは、個の力に頼るのではなく、スズメバチのようにチームが一つとなり、
同じ目標に向かって、一斉に仕掛け、試合の主導権を握る野球を目指したスローガンです。
守備・走塁・打撃・ベンチワークまで全員で攻め続け、挑戦し続けるチームを目指しています。

公式戦ユニフォーム



公式キャラクター



しゅうまん君

取り組みの様子



必勝祈願（伊勢山皇大神宮）



地域清掃（いずみ野周辺）



大谷学園対決（横浜隼人高校との交流戦）



翔英祭はオリジナルダンスで盛り上げる



対話を重視した技術指導（大会前の球場練習）



8年ぶりの校歌（2025年夏）

自主自律 自力貢献

- (1) 自らの意志で行動できること。
- (2) 自分を管理（コントロール）する力を身に付けること。
- (3) 自分の存在が世のため人のためになるよう貢献できる人格を形成すること



部室を綺麗に！！！！

（2023年12月）

長年使用し、汚れや落書きの多かった部室を自分たちの手でリノベーションしました！
（左）リノベ前（右）リノベ後

【練習】火曜日～金曜日

【練習試合】休日・祝日

【休養日】月曜日



秀英高校グラウンド(泉区)



瀬谷本郷球場(瀬谷区)

※週に2回程度使用

OUR HISTORY

野球部の歩み

1992年 創部

2023年 監督に佐々木が就任し、新チームがスタート

2024年 秋季地区予選で市立南高校を相手に延長11回タイブレークで勝利
単独チームを相手に、初めての公式戦勝利を飾る

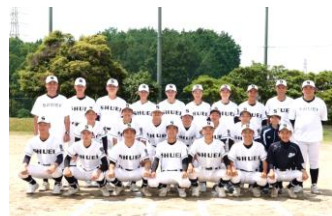
2025年 第107回神奈川大会で港北高校に勝利し、8年ぶりに勝利の校歌を歌う

2026年 第108回神奈川大会で津久井高校に勝利し、創部初2年連続の初戦突破

この先の歴史は、自分たちの手で築く。



新チーム初の対外試合(2023)



新体制で迎えた初めての夏(2024)



2年連続初戦突破は創部初(2026)

ACTIVITY CONTENTS

主な年間行事

4月 入学式

春季地区予選／県大会

5月 東北遠征(宿泊遠征)

6月 壮行会(夏の神奈川大会)

7月 三重遠征(宿泊遠征)

選手権大会(甲子園予選)

8月 秋季地区予選

9月 秋季県大会

11月 横浜西部地区交流戦

12月 冬季キャンプ(強化合宿)
年末休み

1月 必勝祈願(伊勢山皇大神宮)
地域清掃／ボランティア活動

2月 環境整備

3月 卒業式・卒業を祝う会
練習試合解禁

※年間の対外試合数は約100試合(公式戦を含む)

※シーズンオフは野球以外の教育活動も盛んに行う



記録員としてベンチに入った秀英の蔵根美結マネジャー＝伊勢原

秀英初の女子部員

「部に貢献したい」

蔵根美結マネジャー

秀英のベンチに記録員として入った1年生マネジャーの蔵根美結さん(15)は、同校野球部初の女子部員。今春、学校が男女共学となり、女子生徒でただ一人、入部した。

中学時代はソフトテニス部員だったが、高校にはテニス部がなく、各部を回る中で「野球部がすごく活気があり、ここで自分も貢献したいと

思った」という。

野球の知識はほぼゼロ。プロ野球を見ることもほとんどなかった。監督や選手からスコアの書き方を習い、家でもネットで調べて独学した。練習中、つらそうな選手を見かけると、積極的に声をかけるよう心がけた。

この日も、試合前の緊張でカチカチだった選手たちに自分から話しかけていった。残念ながらコールドで敗れたが、「来年は必ず勝てるはず。それまでベンチワークなど、自分にできることをやっていきたい」。今は野球部が「とても楽しい」と笑顔で話した。(中嶋秀恵)

攻守でチームを引っ張った秀英の主将渋谷桜

横浜商高グラウンド



攻め貫き乱打戦制す

秀英 ①：乱打戦

を制した秀英の主将渋谷桜は「徐々にほぐれて攻撃的な野球ができた」と四、五回の連続4得点を誇った。主将自身は4安打2打点、続く風間も3安打4打

点と中軸がリードしてチーム13得点。強豪校に大差で敗れる試合を多く経験し「投手を援護できる、追加点を挙げられる野球を（渋谷桜）と攻めの姿勢を貫いた。23日に横浜商（Y校）との決戦を控え、負ける気持ちは一切ない。県大会を決める

覚悟で」と決意を口にした。

杉田が雪辱アーチ

Y校 ①：横浜商

（Y校）は8番の杉田が本塁打を含む3安打6打点と活躍し、投げては先発山口ら3人で零封した。

武相に逆転コールド負けを喫した昨秋の県大会の反省から「冷静に次につなぐ気持ちで」と杉田。低い打球を意識した初回に二塁打で手応えをつかみ、左越えのアーチも描いた。

同じ公立校として選抜出場した横浜清陵の姿も原動力だ。主将松本は「誇らしい気持ちで見届けた。自分たちがあそこに立てなかった悔しさを頑張ってきたので、気持ちを全力でぶつける」と意気込んだ。

秀英 8年ぶり白星

秀英が、2017年以来となる夏1勝を飾った。投手リレーした2年生エース関田と番番10の3年生長谷川の2人が、互いが招いたピンチをカバーし合い、勝利をつかみ取った。長谷川は「3年間取り組んできたことが開運っていなかった」と、喜びをかみしめた。

それぞれが持ち味を出し、自分の役割を全うする気持ちが勝利をたぐ

秀英7-5 港北

勝機呼ぶ継投

「全員で」互いに支え

り寄せた。先発した関田が、先制した後の二回に3失点。2死一、二塁の場面で「後輩がつくったピンチは3年生が抑えてあげないと」と、左腕長谷川がマウンドに上がる。代わりはな、左前打を許すも、三回以降はコーナーを丁寧に突き、スコア

ボードにゼロを並べた。

のクラブに収まると、歓喜に包まれた。

関田から「投手陣のお兄ちゃん的存在」と慕われる長谷川は、最後を締めた関田に感謝し「この代で1勝できて本当に良かった」と目に涙を浮かべた。渋谷校は「誰かのミスは誰かがカバーする意識で1年間取り組んできた。一戦必勝で次も全員で勝ちにいたい」と次戦を見据えた。

(阿部 幸康)



②2回1安打3失点（自責点2）だった秀英の関田⑦7回9安打2失点だった秀英の長谷川＝ハマヤク（石井 啓祐写す）



高校野球神奈川大会 1回戦

秀英、捕手・風間が勝負強く3安打5打点 「グラウンドの監督」と全幅信頼

高校野球

高校野球神奈川大会

...

高校野球 | 神奈川新聞 | 2026年7月8日(水) 19:30

秀英 16 - 9 津久井



【津久井一秀英】1回秀英1死二、三塁、風間が中前に先制適時打を放つ＝相模原ギオン（番場 一浩写す）

秀英の風間が好守で奮闘し、チームの2年連続初戦白星に貢献した。打席では4番として3安打5打点をマーク。四回に走者一掃の三塁打を放つなど持ち前の勝負強さが光り、「自分から流れをつくる思いで打席に立ち、何とか役割を果たせた」と振り返った。

マスクをかぶれば1年生2人をしっかりリード。両チーム31安打25得点の乱打戦となったが、相手にリードは許さなかった。

新チームでは主将を務め、佐々木監督は「グラウンドの監督」と全幅の信頼を置く。昨夏も4番を務めた頼れる主砲が、一回り成長した姿を見せた。

「誰かのために」努力を学んだ 秀英 野球部初のマネジャー・蔵根さん

2026年7月11日 19時00分

永渕真緒



試合前にノックをする秀英のマネジャー蔵根美結さん＝2026年7月11日午前11時36分、大和、大賀章好氏撮影 

（11日、第108回全国高校野球選手権神奈川大会2回戦
横須賀12－0秀英＝5回コールド）

秀英のマネジャーの蔵根美結さん（3年）は試合前の数分間、選手に向けて10本のノックを打った。

24年4月に共学となった秀英で、蔵根さんは野球部初めてのマネジャーとして入部した。

中学はテニス部。高校で部活に入る予定はなかったが、野球部の活気に一目ぼれした。

人を支えることが大好き。「みんなと同じ場所に立ちたい」と思い、ノッカーに手を挙げた。ノックの練習は毎朝1時間ほど。苦手な朝も、「選手の力になりたい」と乗り越えることができた。

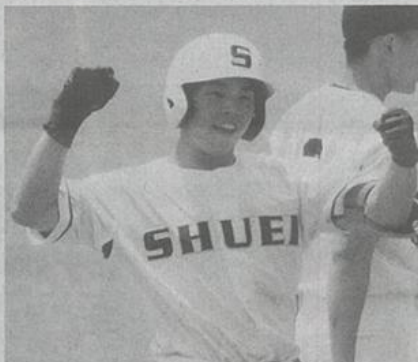
迎えた最後の夏。抽選会では開会式の先導という大役を引き当て、「幸運の持ち主」とみんなで喜んだ。

結果は2回戦、横須賀に5回コールドで敗退。自分らしく戦い抜いた仲間の姿に、「悔いはないです」と笑顔を見せた。

将来の夢は美容師。野球からは離れるが、「誰かのために」と努力することを、この場所で学んだ。

部員サポート 整体師の道へ

秀英・水越



横須賀一秀英 2回無死、2塁打を放ち喜ぶ秀英の水越選手
(11日、大和スタジアムで)

秀英は初回から横須賀に
先行を許し、追いかける展
開となった。二回には先頭
打者の水越陽士選手(3年)

が初球から二塁打を放つも、惜しくも得点に結び付かず、五回コールド負けで涙をのんだ。

意地の一打だった。一回、先頭打者の水越選手は、1回戦に無安打で終わった悔しさを思い出した。「絶対に打ってやる」。狙い通りの外角の直球をとらえると、打球は右翼線沿いに。二塁へ到達すると、力強くガッツポーズした。

同校では週に2回、整体の授業を選択受講できる。水越選手は、体の仕組みを理解することで「なぜ肩が痛くなるのか」など自身も抱えていた体の不調を克服できるようになった。部員へのマッサージなど、体のケアを通じてチームをサポートする。チームメートから喜ばれ、自身のやりがいにもつながった。

今後は整体師を目指し、専門学校への進学を予定している。「野球に関わる多くの選手をサポートしたい」と、新たな挑戦に向けて一歩を踏み出す。